

元気でいたいから 診察室訪問

がん治療の進歩・放射線治療の紹介



松山赤十字病院 放射線治療科
浦島雄介

このコーナーは松山市医師会の協力によるものです。

皆さんは、放射線科という
レントゲンなど画像診断
を思い浮かべる人が大半か
と思います。今回は放射線
治療の紹介です。

がん治療の三本柱として
手術と抗がん剤に並ぶ放射
線治療は、1895年のX線
発見の翌年にはがん治療へ
の応用が始まりました。その
後、科学技術の発達と共に高
精度放射線治療となった現
在では、がんにしつかりと当
てながら周囲への影響を軽
くできるまでになりました。
放射線治療には、放射線を
出す針や薬を使う内照射と、

放射線を体の外から当てる
外照射がありますが、外照射
で照射を受けたからといっ
て、体から放射線が出るよう
になることはありません。

放射線治療は、その役割も
手がける領域も幅広く、病変
を根絶やしにする根治的治
療から、症状を和らげるため
の緩和的治療まで、また脳腫
瘍や食道がん、肺がん、乳が
ん、前立腺がん、皮膚がんな
ど多くの疾患で活用されて
います。

治療の回数や期間も、1回
の照射で済むものから、8週
ほどかけて40回近く行うも

のまでさまざまで、これは治
療の部位や目的により変わ
ります。

副作用も当てる部位によ
り異なりますが、乳がん術後
の照射などでは開始から2、
3週目ぐらいで当てる範囲
に日焼け程度の皮膚炎が出
てきたり、前立腺がんでは頻
尿や便意の変化などがあり
ます。いずれの場合も、治療
後1カ月後には落ち着きま
すし、通院治療と仕事を両立
する人もたくさんいらっ
しゃいます。

平均寿命が伸びる一方で、
がんを患う場面も増えまし
た。からだに優しく、形態と
機能を温存できる放射線治
療をうまく活用してもらえ
たらと思います。